

【遊びの経過】

4月から経験している感触遊びでは、「さわってみたい」という気持ちの一方で、手の汚れやぬるぬるとした感触に抵抗をもつ子どももいるが、少しずつ環境にも慣れ、様々なものに興味をもち「やってみたい」「挑戦してみたい」という積極的な気持ちがめばえ、自分からかかわる姿が見られるようになってきた。

【ねらい】

わらび粉粘土に興味をもち、自ら触って遊ぶことを楽しむ。

○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助

- ★発達段階やアレルギーを考慮し、万が一口に入れても安全なわらび粉、食紅を材料として用意する。
- ★活動場所が広く使えるように室内の遊具等は片付け、思いきり遊べるように、ブルーシートを敷く。
- ★導入後すぐに活動に取り組むことができるよう、わらび粉粘土や容器等を遊べる状態に準備しておく。

○保育者の話を聞いて、保育者が遊ぶ様子を見る。

先生、楽しそうだな。

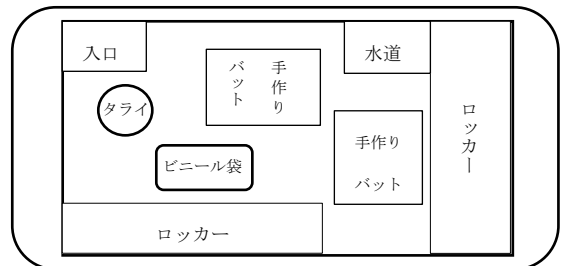
【人とのかかわり】

私も触ってみようかな。

【興味・関心】



どうしようかなあ。【葛藤】



○わらび粉粘土を触ってみる。

どんな感じかな。

【興味・関心】 【探究心】



つめたいよ。【発見】

私も触ってみよう。

【挑戦】



ちょっとたたいてみよう。

【好奇心】

○わらび粉粘土を容器に入れたり、足で触ったりする。

むにゅむにゅする。

【探究心】 【気づき】



のびるぞ。

【発見】 【夢中】

気持ちいいね。【興味・関心】

ちぎってみよう。

【興味・関心】 【挑戦】

■子どもたちが興味をもち、やってみたいと思えるように、保育者が楽しそうにしているところを見せ、遊びに誘う。

■遊びに入るのを嫌がる子どもには、無理強いをせず、保育者がそばに寄り添いながら、一緒にわらび粉粘土の感触を味わい、思いが共有できるような言葉かけをする。

■直接接触れることに抵抗を感じる子どものために、まるめたわらび粉粘土をビニール袋に入れたり、容器に入れて渡したりすることで活動に参加できるようにする。

■水分量を調節して色々な柔らかさのわらび粉粘土を準備したり、食紅で着色をしたりして興味や関心を持てるように工夫する。

■保育者も一緒に、遊びを楽しむ中で遊び方を知らせたり、もっと遊びたいという気持ちを持たせたりして楽しさを共有する。

■遊びに夢中になれるよう、個人個人に合わせたペースで遊びを進めていき、一人ひとりの感じた気持ちや表現を受け止め、保育者が言葉に表しながら共感していく。

【評価】

・わらび粉粘土に自分から触れ、おさえたり、ちぎったりする感触を楽しんだり、形のかわる面白さを感じたりしている。